



【ワークショップ型研修】

参加型モニタリングと評価活動ワークショップ

2009年度 第5回 2009年12月26日(土)

講師:長畑 誠 あいあいネット(講義実施当時) 専務理事

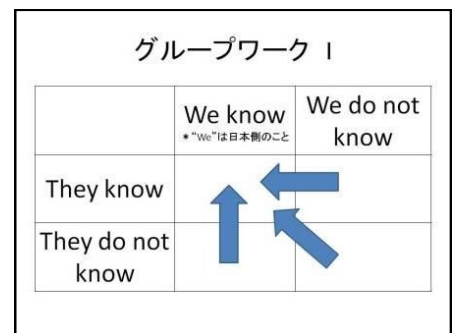
【学習目標】

グループワークを通じて、現地のNGOや住民にとってのモニタリングとは何かを考え、情報収集の方法等について学ぶ。

グループワークI：聞きたいことは何か

グループワークIでは、以下の表を利用して、日本のNGO、現地のNGOと住民が「知っていること」と「知らないこと」を整理した。モニタリングや評価で現地を訪問する際、日本のNGOは自分たちが知りたい情報を収集することで満足しがちである。

参加者はこのワークショップにより、現地のNGOや住民も気付きや学びがあるモニタリングや評価とすることが必要であり、「私たちも住民も知らない」ことや「住民は知らないが私たちは知っている」ことを「私たちも住民も知っている」ことにしていくことが理想であることを学んだ。



グループワークII：それぞれの立場に立って考える

グループワークIIでは、参加者は2グループに分かれ、事例を1つ選び、その事業において、時系列で各ステークホル

ダーが実施した事を整理した。参加者は、各ステークホルダーの事業への関わり方、今後の達成目標を確認した。

グループワーク II

	日本側 (NGO)	相手国カウンターパート	住民 (受益者)
プロジェクトを始める前			
プロジェクトの開始時			
その後～現在			
今から5年後の役割			

グループワークIII：質問内容を考える

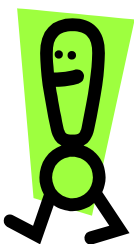
グループワークIIIでは、「日本側が知りたいこと」、「カウンターパートが知りたいこと」、「住民に発見してほしいこと」に分け、具体的に質問内容を整理した。質問の方法として、講師の長畑氏から、一方的に質問を浴びせるのではなく、相手の自尊心を

尊重した会話をするように心がけること、相手の考えや思い込みを聞くのではなく、事実を思い出してもらいような質問をすること (“why”ではなく、“what, who, when, where”を使うこと)が重要であるという説明があった。

講師紹介



長畑 誠 (ながはた・まこと)
あいあいネット(現:一般社団法人
あいあいネット) 専務理事



【参加者の声】

「現地の人たちが自分たちで気付いて行動することの大切さが確認できた。次の訪問で現地の住民と話し合おうと思う」

「カウンターパートの能力向上もまかせきりではなく、一緒にやるべきだと気付いた」